

国際コメ需給とジャポニカ米の現状

-- 円安と国内相場弱含みで日本のコメに国際競争力 --

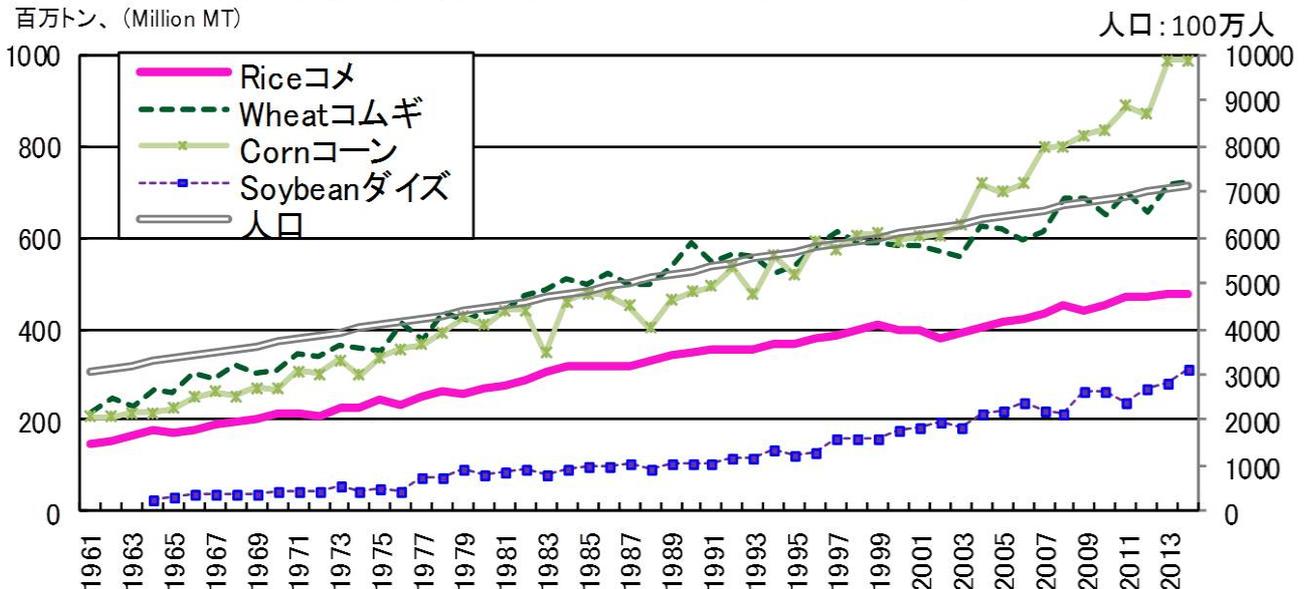
九州大学大学院農学研究院 伊東正一

I. 世界における近年のコメ需給：国際価格の下落で、2014年は増産も一休み

世界のコメ生産量は2013年に史上最高の4億7千7百万トンに達した(精米換算、USDA: [PSD Online](http://www.usda.gov/psdonline/), January 2015)。2014年は国際価格の下落の影響もあり、前年より2百万トン少ない4億7千5百万トンとなった(図1)。しかし、過去10年間近い期間の増産はこれまでにない勢いを示し、高い国際価格が発展途上国をはじめ大きな刺激となったことは否めない。特に、2006年に7年ぶりに史上最高を記録してそれまでの価格低迷からなる減産傾向を克服してからは、高い国際価格に刺激され、2013年までの7年間に13.4%増加した。これは世界の人口増加率の8.4%を大きく超えるものとなった。このような世界のコメ増産はコメ生産が1億トンを超える2大国、中国とインド、の増産の影響が大きいが、バングラデシュ、ベトナムやタイ、それにアフリカ諸国の増産が挙げられる。

国際価格が下落傾向となった2014年は増産も一休みの状況が見られる。世界全体で2百万トンの減産となったが、これは主にインドの単収の減少が影響している。その他の主要生产国では前年並みが多い。

Fig. 1. Evolution of world total production for rice, wheat, corn and soybeans, '61-'14
 図1. 世界におけるコメ、コムギ、コーン、ダイズの生産量, 1961-2014



Source: S. Ito; World Food Statistics and Graphics (<http://worldfood.apionet.or.jp/>), Kyushu University, Japan Jan.2015. (Original sources are from ERS/USDA: PSD Online, August 2007). Note: Rice is milled basis.

ソース: 伊東正一「世界の食料統計」<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/index.html>, Jan. 2015

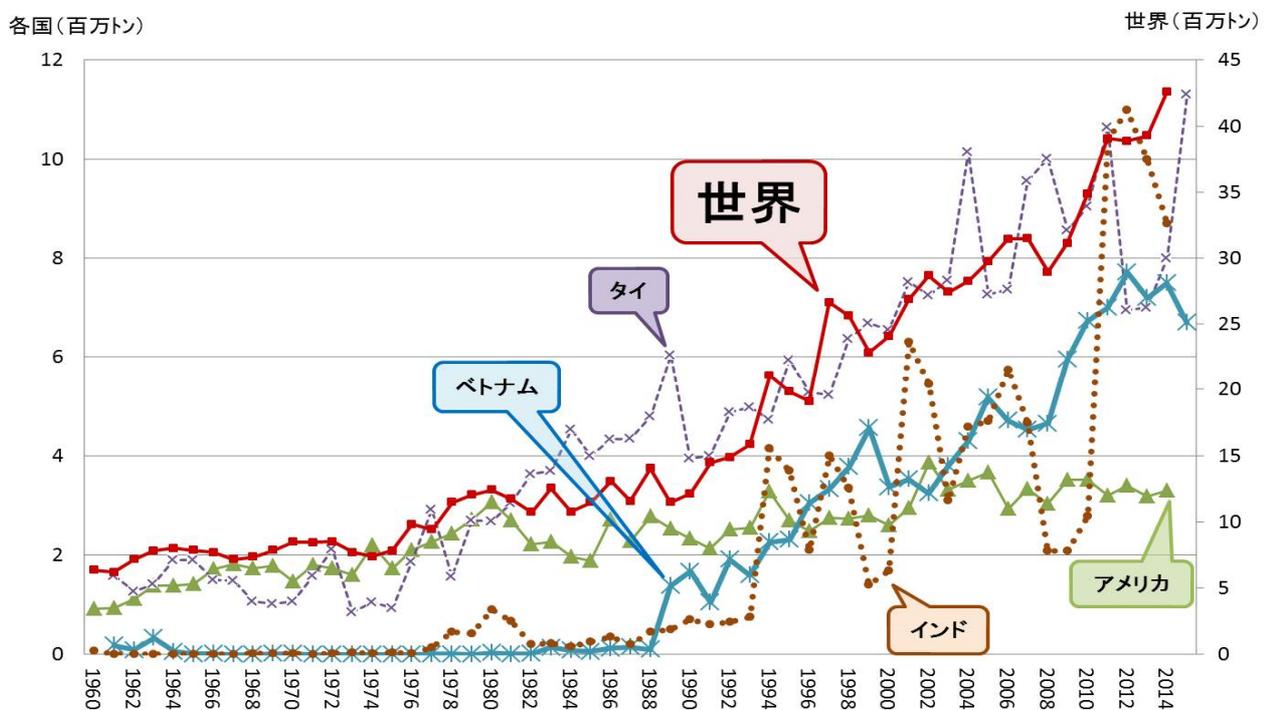
その一方で、米国の生産量はアーカンソー州を中心とする南部で大きな増産となり、カリフォルニア州が減産した（後述）にもかかわらず、米国全体では 2013 年の 610 万トンから 710 万トンへと、大きな回復を見せている。米国のコメ生産量は 2010 年に 760 万トンの史上最高を記録した後、収益の面でコーンやダイズなど、他作物への転換が見られ、2011 年には 590 万トンという、大幅な減産を見せた。その後も 2013 年産までこの状況は続き、2014 年によやく他の作物の価格の下落状況から稲作への復帰が見られた。しかし、生産面積においても 2010 年の 146 万 ha には遠く及ばず、2014 年産は 118 万 ha となっている。

米国の稲作は他の競合作物との関係が強く、機械化が進んでいるだけに、生産農家は競合作物間の収益性の違いに敏感である。自らコメを食するわけでもなく、よって、稲作農家も稲作に固執する傾向はアジアほど強くない。このような生産面積の大きな変化は今後の競合作物間の市場価格の変化とともに続くことになろう。

II. 世界のコメ貿易：高価格の中での急増

コメの国際貿易量は 2009 年の 3,140 万トンから 2013 年には 4 千万トンを超え、2014 年も増加を遂げ 4,260 万トンに達している（図 2）。このように、コメの国際貿易量はかなり早いスピードで拡大しており、はますます国際商品化している。2007 年から 2008 年の価格高騰時に各国で輸出規制が行われた状況がまるで遠い過去のように思われる。

図2. 世界及び主要国のコメ輸出量の推移(1960-2015)



ソース: 伊東正一「一緒に世界をみませんか・・・」 <http://worldfood.apionet.or.jp/> Jan. 2015

各国別では、コメ輸出では世界最大のタイが、政策の失敗で 2010 年の史上最高の輸出货量

1,060 万トンから翌年には 700 万トンを下回るほどの下落となった。2012 年も多少の改善は見られたが、大きな回復はなく、2013 年になってようやく再び 1 千万トンを超えた。そうして、その勢いに乗り 2014 年にはこれまでの史上最高の 1,130 万トンを記録し、再び世界最大のコメ輸出国の座に返り咲いた。また、ベトナムは史上最高を記録した 2011 年の 770 万トンからは減少しているものの 2014 年も前年と同じ 670 万トンを維持している。インドは 2011 年からそれまでの政策を大きく変更し、輸出拡大に転じた。このため、2011 年は前年の 270 万トンから一気に 1 千万トンを超える 1,040 万トンを達成し、世界最大のコメ輸出国となった。2012 年もインドのコメ輸出量はさらに拡大し、1,090 万トンとなったが、その後は多少の縮小に転じ、2014 年では 870 万トンとなっている。しかし、それでもまだベトナムの輸出量より多く、国内生産量が 1 億トンを超えるインドにとって、今後の状況次第では改めて世界最大の輸出国となる可能性は十分にある。

III. 国際コメ価格の変化

世界のコメ相場は 2014 年末までの 2 年間で大きく下落した（図 3）。タイの輸出価格は 2 年続きの輸出不振を背景に 2012 年 7 月あたりからそれまでの 1 トン当たり 600 ドル(100%B) のレベルから徐々に価格を下げてきており、2014 年 5 月には 1 トン当たり 400 ドルを切る 399 ドルまで下げた。こうしたタイ価格の値下げに対応する形で、米国のシカゴ相場もこのころから値下がりに転じた。シカゴ相場はそれまでの 2 年間にわたり 550 ドル前後のレベルを維持していたが、2014 年 12 月の平均価格は 415 ドルまで値下がりした(USDA, 2015a)。

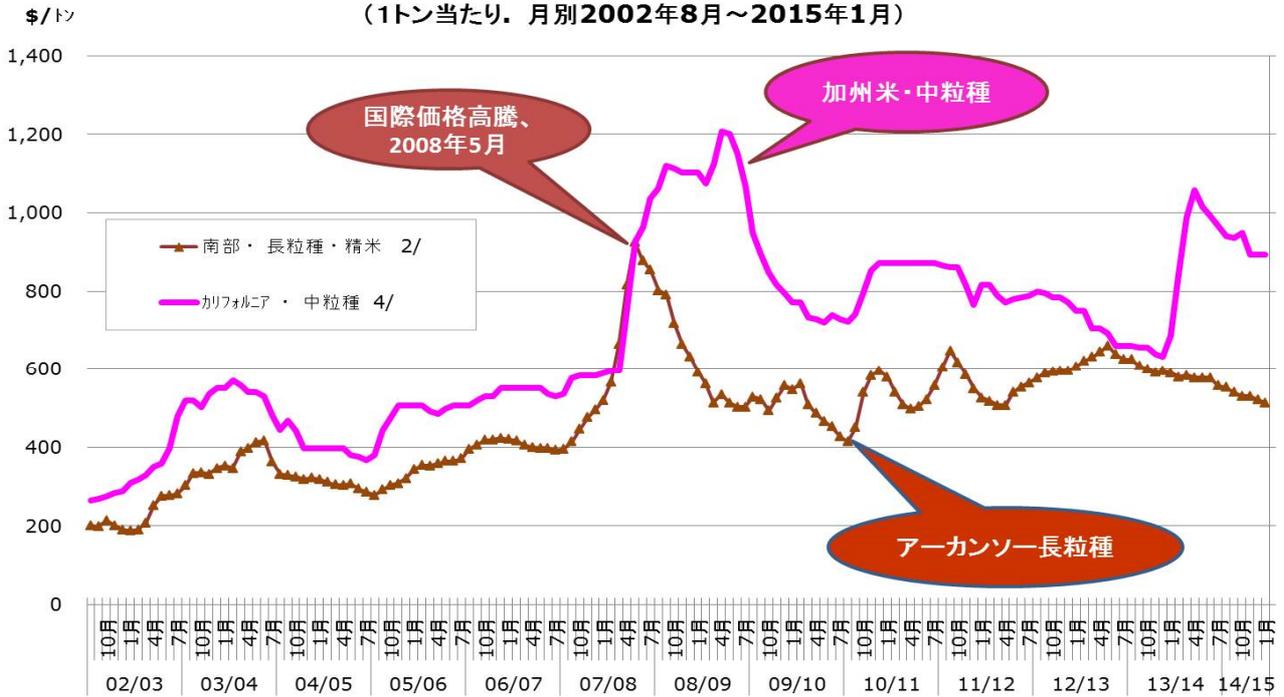
原油の価格相場と穀物のそれはかつては非常に連動した動きを示していたが、2014 年 7 月あたりからの原油の値下がりとはそれまでの 1 バレル 100 ドル前後から 2015 年 1 月には 50 ドルを下回る状態(WTI のニューヨーク市場)となっている(図 4)。これに影響を受けて、ダイズやコーンのシカゴ相場も値下がりし、最も値下がりした 2014 年 9 月末にはコーンが 1 ブッシェル当たり 3.2 ドル、ダイズが同 9.1 ドル、コムギが同 4.8 ドルまで下がり、2010 年来の下落となった。その後、若干の持ち直しはあったが、2014 年 12 月から再び値下げに転じている。

原油価格の動きは、コーンやダイズがバイオ燃料として利用され、原油との代替財の関係があるため、価格が連動する傾向にあるが、原油価格がこのように大幅に下落すると、バイオ燃料の価格も下がり、コーンの燃料向けの需要が小さくなり、生産が拡大しているコーンは相場が下落することもあり得よう。

かつては、原油価格が 1 バレル 100 ドルを超える高価格に刺激されて、コーンやダイズをはじめとする農作物の価格は全体が高価格で推移し、生産は急激に拡大した。コーンは今やコムギを抜いて穀物 No.1 の生産量で、世界合計ではほぼ 10 億トンに達している。この 10 年間で 40%の増産となった。ダイズも 2014 年産は 3 億トンを超え、その増産率の勢いはコーンより凄まじい。この 10 年間で 50%増産された。コムギやコメもこの 10 年間の増産は目を見張るものがある。これらの農産物の国際価格はお互いに連動していることが過

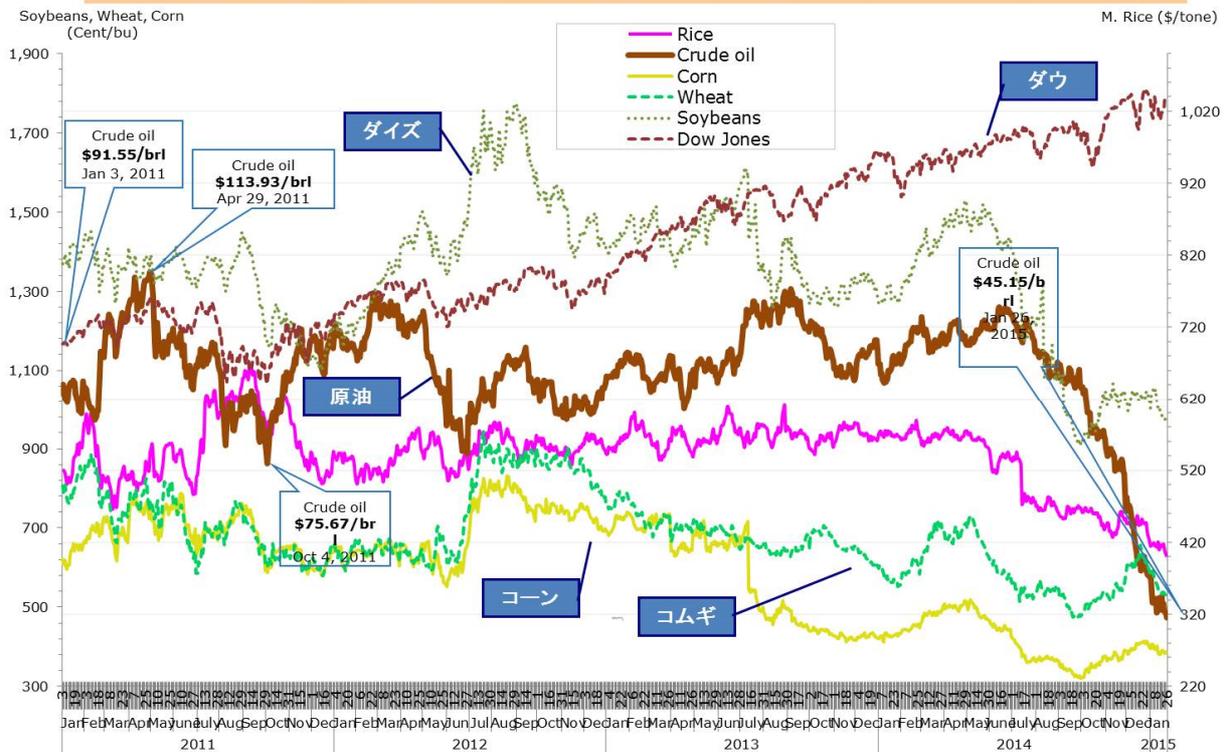
去半世紀のデータにも伺える。よって、原油価格が暴落していることから、コメやダイズを含む穀物全体の国際価格も今後、更なる大幅な下落が起こっても決して驚くことではない。

図3. アメリカにおける精米価格の動き
(1トン当たり. 月別2002年8月～2015年1月)



ソース: 米国農務省(USDA).Rice Situation and Outlook Yearbook Rice Outlook, January 12, 2015
九州大学農学研究院農政学教室 (代表: 伊東正一)

図4. 原油と穀物における日々相場の推移(NYMEX, CBOT), Jan 1, 2011 – Jan 26, 2015



Rice prices are reported on original website in the rough rice basis in unit of US\$/cwt. Milled rice price data were calculated from equation: Original data multiplied by 1000/(45.36*0.6) for 1 ton, which implies approximately equivalent to 4-percent-broken milled-rice package for U.S. No.1.
Source: GFT - Online Futures Trading, <http://futures.tradingcharts.com>; <http://finance.yahoo.com>

干害によるカリフォルニア米価格の高騰：ジャポニカ米とインディカ米の価格分離

カリフォルニアの稲作は昨年冬における山脈地帯の降雪が異常に少なかったため、昨年産米の収穫面積は前年より 23%減少し、43 万 1 千エーカー（約 17 万 2 千 ha）となった。このような減産は 2013 年末から徐々に予測されていたため、カリフォルニアの中粒種の相場は 2014 年 1 月から上昇を始めた。それまで精米 1 トン当たり 600 ドル前半だったものが、4 月には 1,058 ドルまで上昇した。その後は徐々に下降したものの、2015 年 1 月においても 900 ドル近い価格を維持している。

その一方で、アーカンソー州を中心とする南部の長粒種の価格は 2013 年 5 月の同 661 ドルをピークに下落を続け、2015 年 1 月には 513 ドルにまで下がっている。実は、米国のコメ相場は 2008 年の国際穀物価格高騰のあとは、南部の長粒種（インディカ米）とカリフォルニア州の中粒種（ジャポニカ米）の価格変動は大きく異なっている。これは需要層が異なっていること、また、生産場所が限られていることに大きく要因していると思われる。カリフォルニアのコメはジャポニカ米が殆んどであるが、日本を始め、韓国、台湾の MA 米として輸出され大きなシェアを占めており、さらに、世界的な日本食ブームにより世界各地にも輸出されている。また、国際市場において、ジャポニカ米をカリフォルニアほどに輸出している国は今のところない。オーストラリアの中粒種が過去においては期待されたが、水不足による生産コスト高もあり、生産は安定していない。

その一方で、米国南部のインディカ米はタイやインド、ベトナムをはじめとする競争相手が多い。さらに、南部でカリフォルニアの中粒種の品種を作付しようとする、それは法的に禁止されている。つまり、種の開発をしたカリフォルニア州がそれを許可しないのである。よって、同じ米国内でもジャポニカ米の生産地域が限られているという状況を生み出している。加州で開発された中粒種の品種 M-205 などは、日本産のコメの味には劣るものの、単収が高いことに加え、生育期間も短い。このような品種をこれから南部で開発しようとする、かなりの年数を要する。決して、南部の地域がジャポニカ米の生産に適していないわけではない。南部は過去にもコシヒカリを生産した経緯がある。また、ヒトメボレやアキタコマチなども気象条件から見て生産可能ではあるのだが、新しい日本産の品種に取り組むには農家も二の足を踏んでしまうのが現状のようだ。特に、日本産品種に対しては、コシヒカリを生産した際に強烈な倒伏を経験しており、米国の農家は日本の品種に取り組むことには慎重である。

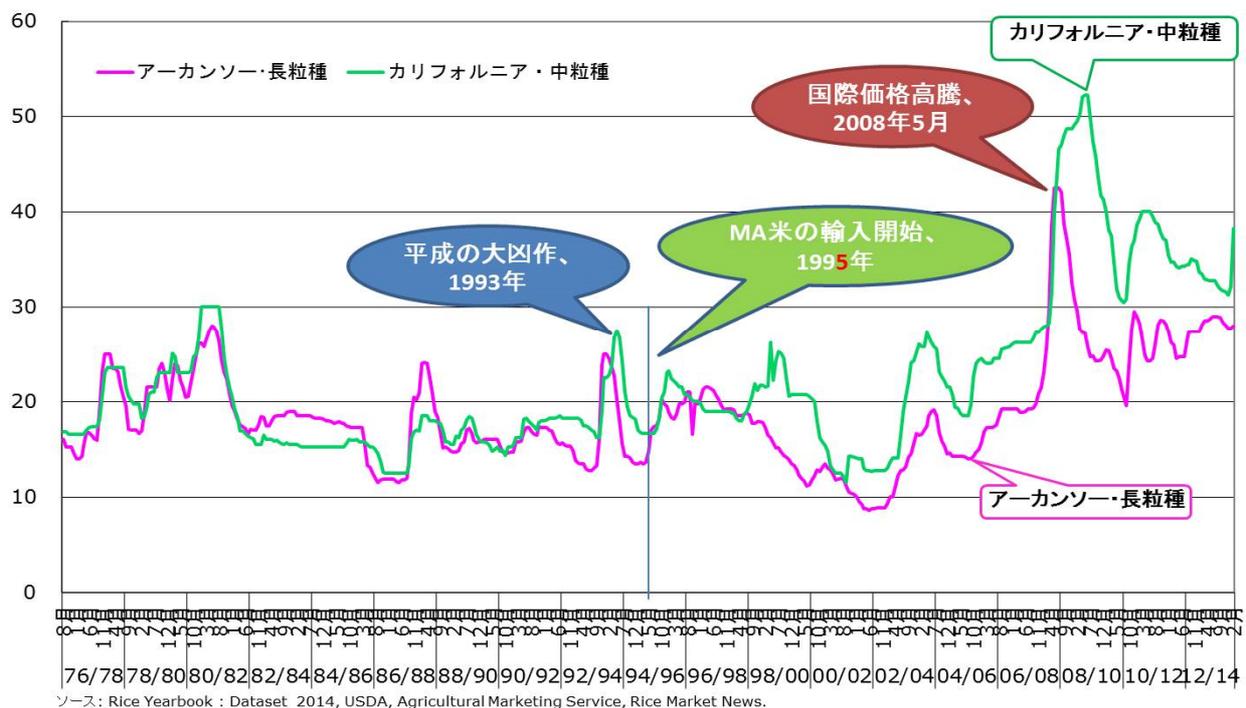
こういうことから、米国におけるジャポニカ米とインディカ米の価格は分離され、独自の値動きを見せている。かつては両方の価格はお互いに価格差も僅かで、連動した動きを見せていた（図 5）。しかし、日本の MA 米輸入が始まった 1995 年からこれら二つのコメの価格かい離は顕著なものとなっている。加州のジャポニカ米がインディカ米に比べはるかに高いレベルで常に推移している。

このようなジャポニカ米の高価格は遂には米国農業法にも反映されるようになった。2014 年米国農業法では基準となる指標価格（Reference Prices）の設定において長粒種や中粒種

はモミ 100 ポンド当たり 14.00 ドルであるが、「temperate japonica rice」を明記して、このジャポニカ米は他の指標価格の 15%高を記している (Chite, 2014)。

米国のこのようなコメ相場は世界各地に影響を及ぼし、ジャポニカ米の高い価格相場を形成している。メキシコでは加州からは直に輸入されるにもかかわらず、加州産米の「錦 Nishiki」は精米 1 kg 袋入りが 37 ペソ (2014 年 10 月、カンクン市のウォールマート店にて) で販売されていた。現在の為替レート (1 ペソ 8 円) からすると 296 円となる。加州産の錦ブランドは M-401 品種を主体にパックされているが、日本産品種の単粒種のような優れた味

図5. 米国の各産地(アーカンソー・カリフォルニア)における精米工場FOB価格
(月別1976年8月~2014年2月, 精米100ポンド袋詰め)



ほどではない。これまでの私たちの実験では日本で一般的に使われている秋田県産アキタコマチの方が品質としてはよい。そのような錦が 1kg300 円ほどの価格で販売されているわけである。ちなみに、一般の長粒種は 1kg 当たり 11 ペソ (88 円) で販売されていた。

IV. 日本産米の価格低迷と円安と国際競争力

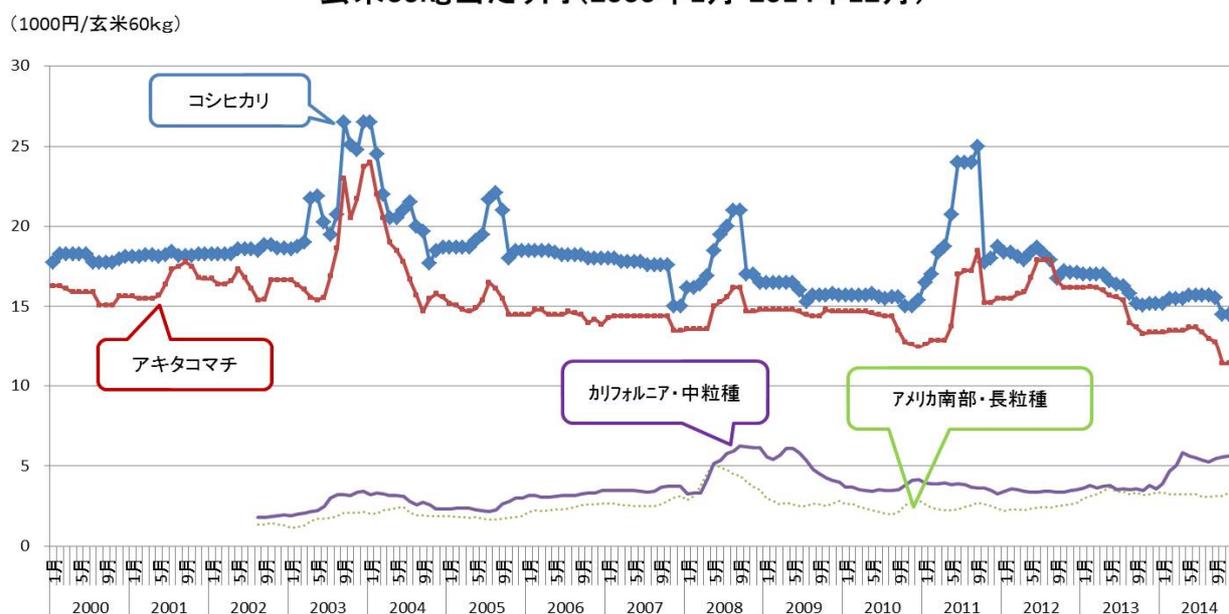
日本のコメ相場が下落している (図 6)。玄米 60 kg の卸売相場は 2014 年 12 月で秋田産アキタコマチが 11,400 円 (日本経済新聞) で前年の同期より 2 千円安い。また、北海道産キララ 397 は 10,700 円で、前年同期より 2,700 円安い。北海道産キララが玄米 60 kg 当たり 1 万円台になった記録はそれ以前にはない。また、新潟産コシヒカリにおいても 14,600 円で前年同期比 600 円安いだが、下落傾向においては他のコメと同じである。新潟産コシヒカ

りが1万5千円レベルをわずかに割ったことは2010年秋に一時あるものの、現在の下落ほどではない。そういう意味から、現在の日本のコメ相場はここ数十年来の低迷といえそうだ。

さらに、近年は円安が進んでいる。日本円の為替相場は1ドルが120円前後に達している。2012年ころには1ドル約80円であったので、外国から見れば、日本産のものはこの間に3割強値下がりしたも同然だ。

日本のコメが玄米60kg当たり1万1千円の場合、精米換算すると、目減りが10%として、精米60kg当たり12,200円となる。これを精米1トン当たりに換算すると20万3,300円となる。これをドルに換算すると、1ドル120円で1,694ドルと試算される。かつて、日本のコメ相場は1トン30万円（1ドル100円で3千ドル）レベルとなっていた時もあったが、その時代に比べると日本産米の国際価格は相当に値下がりしていることになる。

図6. 日本とアメリカにおけるコメの国内価格の比較、
玄米60kg当たり円(2000年1月-2014年12月)



ソース: 米国農務省(USDA)及び日本経済新聞

九州大学農学研究院農政学教室 (代表: 伊東正一) <http://worldfood.apionet.or.jp/riceprice/riceprice1.htm>

注: 為替レートは、三菱UFJリサーチ&ファイナンシャルの年平均から引用した。 http://www.murc-kawasesouba.jp/fx/past_3month.php

そこで、お隣の韓国のコメ相場を見てみたい。まず、円とウォンの為替相場だが、近年は1円が9.195ウォン（2015年1月20日現在）となっている。韓国のコメ卸売り相場は精米20kg当たりちょうど40,000ウォン（2015年1月23日現在のソウル卸売価格、aT公社）となっている。これを玄米60kg当たり日本円に換算すると、11,745円となる。驚くことにこの相場は先に述べた秋田県産アキタコマチより高い価格である。韓国のコメ相場はソウルが最も安く、釜山などその他の主要都市ではソウルより5%くらい高くなる。

かつて、韓国のコメ価格は日本の3分の2くらい、というのがこれまでの一般的な情報であった。しかし、近年はこれがかなり変化している。韓国ウォンが円に対して強くなったということも確かに影響している。しかし、それだけではない。韓国のコメ相場は農家の強

い要求による価格支持政策も影響し、価格はこれまで上昇傾向にある。一般のスーパーやコンビニにおいても、コメの価格は精米 1 kg入り袋で 4,000 ウォン（435 円）前後で販売されている。

V. 結論

このようなジャポニカ米の高い相場は世界各地で稲作農家の生産意欲をもたらしている。しかしながら、大量の生産拡大には今のところつながっておらず、ジャポニカ米では世界最大の輸出地であるカリフォルニア州がその有利性を謳歌している状況である。

日本産米にとって興味深いのはこうした世界のジャポニカ米のマーケットである。特に、先に見た韓国のコメ相場である。価格は日本とほぼ同等になりながら、韓国産米の一般的な品質は日本のそれに比べ、劣る。これまでの韓国の消費者に対する研究では、韓国のコメ消費者は米国産米や中国産米に比べ、自国産米を好む傾向があることが示唆されている。ただし、日本産米と比較した韓国消費者の嗜好に対する研究はない。

これまで、日本のコメは香港、シンガポール、上海などに多く輸出されているが、韓国市場も決して見過ごされることがないよう、関心を抱きたいものである。ましてや、この日本産米の値下がりや円安は日本のコメ輸出には拡大のチャンスとなるはずである。過去の情報や印象にのみ頼ることなく、中国の市場などを含めた国際市場において、新しい現在の日本産米の競争力を再認識する必要がある。

引用文献

1. US Department of Agriculture (USDA, 2015a): *Rice Outlook*, Economic Research Service, RCS-15A, January 14, 2015.
2. US Department of Agriculture (USDA, 2015b): *PSD Online*, Foreign Agricultural Service, January 2015.
<http://apps.fas.usda.gov/psdonline/psdDownload.aspx>
3. 日本経済新聞：火曜版のコメ市場価格
4. aT (2015): Rice Wholesale Prices,
<https://www.kamis.co.kr/customer/price/wholesale/item.do>
5. Chite, Ralph M. (2014): The 2014 Farm Bill (P.L. 113-79): Summary and Side-by-Side, visited on Feb. 4, 2015
http://www.farmland.org/programs/federal/documents/2014_0213_CRS_FarmBillSummary.pdf